

# 新しい学びの 起業教育

渡邊 忠彦

宮城県仙台市立太白小学校長

起業教育は、注目され始めたばかりの、新しい教育だが、毎日の生活や将来の職場等で必要とされるチャレンジ精神を養い、生涯学習時代に不可欠とされる資質・能力を育てるこれからの教育と言われている。より実践的な力を重視する起業教育は「生活に生きる知恵をつける教育活動」にふさわしい教育として、今後、取り組まれていくのではないかとと思われる。そこで、前任校で取り組んだ起業教育を例に紹介し、その可能性について書いてみる。

## Ⅰ 起業教育とは

起業教育は、90年代半ばにアントレプレナーシップ教育として欧米から紹介されたのが始まりである。ベンチャーの育成を強く望む民間や、一部の大学主導で普及がはかられてきたが、学校教育での取り組みは少なかった。

その後、教育改革国民会議が、起業家精神の涵養を取り上げたことで、学校教育への導入に弾みがつき、やっと、先進的な小・中・高での取り組みが始まったばかりの教育である。

以下、ねらい等について簡単に紹介する。

### ① 起業教育のねらい

起業精神を育て、起業家的資質・能力を有する人材として個の能力を最大限に育てること。

### ② 起業精神とは

何よりも未来を拓くチャレンジ精神であり、創造性や探究心、自信をともなう。

### ③ 起業家的資質・能力とは

課題を解決するため、情報を収集し分析する力、アイデアを試す企画力、協同して取り組むチームワーク力、さらに、判断力、実行力、リーダーシップ、表現・プレゼンテーション力、

コミュニケーション力等をさしている。

まさに、「生きる力」を育む総合的な学習のねらいに合致している教育といえる。

実際に開発された起業教育のプログラムは様々あるが、起業家をモデルに、経済活動を題材にして学ぶことが特色といえる。

例えば、子ども達が、商店や企業などの経営者の立場に立って取り組む。そして、事業計画や、商品開発や、仕入れ、市場調査、宣伝、販売などを体験して学ぶのである。その際大切なのは、目標を達成するため、問題を解決するために、学びの過程で、いかに起業的精神を発揮して、創造的に対応し、社会的に有効な能力・技能を獲得していくことができたかである。

けっして、起業教育は起業のノウハウを教え、即戦力の起業家を育てる狭い教育ではない。生活の中から自立を図るための学び、生きる力を育てる新しい学力の獲得をめざした教育である。

起業教育は、21世紀の知識社会において、生涯にわたり国民に必要とされる資質、自立心や創造性を育てるのに適した教育といえる。

## Ⅱ 起業教育の必要性

先進国の中で、日本は目立って起業家が少なく、将来に希望を持たない若者が多いのは、学歴依存、大企業志向が強く、独立心の乏しい学生の気質にあると言われている。また、学校教育も上の学校への進学率を自己目的にして満足し、現状を支えているところがある。こうした現状を打ち破り、自ら進路を切り開いていける創造的な人材育成のため、小学生から高校生を対象に、民間の起業体験プログラムや、企業経営者の出張講義などを受けさせる試みが広がりつつある。しかしながら、学校が独自に取り組む例は、まだまだ少ないのが現状である。

また、起業的精神の育成は若いときほど効果的であると言われている。これらのことを考えると、総合的な学習などの時間に起業教育を積極的に導入してやり、早くから独立心の旺盛な新しい学力を身につけた、たくましい子ども達を育てていく必要があると言えそうである。

### 3 起業教育の実践（仙台市立柳生小学校の事例）

仙台市立柳生小学校では、未来を拓く生きる力のある子ども、創造的な子どもの育成をめざして、平成13年度から起業教育に取り組んだ。前例がなく苦勞したが、たくさんの応援をいただきながら、以下のようなプログラムを展開することができた。

#### ① 「バーチャルカンパニー」起業教育東北モデル

平成13年度、希望する6年生20人を対象に課外の時間で一年間試行した初の起業教育。地元の「柳生和紙で作った商品をインターネット上で世界に販売する」をテーマに、6年生が仮想の会社「バーチャルカンパニー」を4社作り、開発した商品をネット上で模擬販売し、投票形式で購入してもらった。中学生、保護者も参加し、大きな反響を呼んだ。講師にはベンチャー会社の社長があたり、後援は東北経済産業局。この記録のHPは平成14年度、文部科学省インターネット活用教育コンクール〔特賞〕を受賞している。

#### ② 「キッズ ファーム」

平成14年度、5年生の「総合的な学習」の時間に90時間、本格導入して展開した起業教育。126名が19社に分かれて、実際に栽培し収穫したハーブと、柳生和紙等を活用して商品開発にあたり、出来上がった商品を、区民祭り、繁華街の一番町で販売体験し収益を得た。収益金を市民の祭り「光のページェント」へ寄付した。リアルな販売を伴う初めての試みで、他校のモデルとなったプログラムである。民間の力を借りずに教員4名の指導で行った。後援は東北経済産業局。

#### ③ 「The柳生ネット」

平成14年から始めたIT活用の起業教育。コミュニティづくりを目指すネットワーク創りに、6年生がメディア・プロダクションとして参加。ブロードバンドに対応した、まち紹介のWebテレビ、地域諸団体等のHPづくりに取り組中である。

実際に起業教育を体験した子ども達は、夢中になって取り組み、「卒業してもこの勉強を続けたい」と語っていたように、子どもの学習意欲を格段に高め、

親からも「大人になった」と大好評の学習であった。

柳生小モデルの起業教育は、平成15年度には、太白小学校をはじめ、県内5校、東京の三鷹市立第四小学校にも波及して、独自の展開を見せている。さらに、準備中の県もあるなど、起業教育は徐々に広がりを見せている。

### 4 起業教育の特長と可能性

起業教育の特長は以下の通りである。

#### ① 目標のはっきりした子ども主体の学習

従来の受け身的立場の学習から、社会に働きかける起業家側の立場で、問題解決を図る子ども主体の授業となる。

#### ② 社会に必要な力を習得できる学習

社会に関わり、経済にふれ、体験しながら学ぶため、実社会に必要な技能を習得することができる。さらに、志の大切さを知り、学ぶことの意義を自ら確かめることができる。

#### ③ 自己評価がしやすく、自らの生き方を考えるのに適した学習

成功や失敗の体験として学び、自己評価がしやすい。さらに、様々な生き方があることを知り、自らの適性や、将来の生き方を考えることができるようになる。

#### ④ 賢明なる社会人としての資質を養う学習

社会への関心が深くなり、共同体成員としての参加意識が強くなる。

さらに、地元の学習素材を活用した起業教育が契機になり、柳生で実際にコミュニティビジネスが立ち上がったように、地域の活性化、コミュニティづくりを促す、社会的影響力の大きい学習でもある。

ぜひ、多くの学校で、可能性の大きい起業教育に挑戦してもらいたいと願っている。

